

## みんなが輝ける社会に

田原中学校3年 仲井唯乃

私は、男女共同参画を実現する土台は、何といたっても男女平等だと思っています。しかし、私は、日本はまだ、真の男女平等にはなっていないと考えています。例えば、私の通う学校では、名簿順が男子から始まり、男子が終わってから女子となります。真の男女平等にするなら、男女を混ぜた名簿順にするべきだと思います。また、全てのクラスではないですが、級長は男子、副級長は女子というクラスが圧倒的に多いです。私は、中学一年生の時に級長をやっていました。その時、みんなに「女子が級長か。めずらしい。」とよく言われました。私は、そんな風に言われるのが悔しくてたまりませんでした。だから、男子に負けないように一生懸命、級長の仕事に取り組みました。私が、がんばっていると、「めずらしい」と言っていた友達も、やがてその言葉は口にしないようになりました。結局、みんながもっていた「級長は男子、副級長は女子」という考え方は、勝手な思い込みだと私は思うようになりました。級長や副級長は、男女に限らず、やれる人がやる。特に、今までは男子にばかり光が当たっていたように思うので、女子でもやるだけの実力があれば、目立てるのが当たり前になるとよいなと思いました。

男女の違いを考えるうえで、男子にしかできないことや、女子にしかできないことは確かにあります。例えば、重いものを持ったり、遠くまで歩いたり走ったりすることに関しては、女子は男子にかないません。でも、男子はどうがんばってみても赤ちゃんを産むことはできません。赤ちゃんを産み育てることに関しては、男子は女子の足元にも及ばないのです。でも、考えてみれば、これらは皆、男女の体のつくりの違いからくるものです。言い換えれば、男女それぞれの個性であると言えます。個性は、その人そのものであることから、認めることはあっても、けなしたり非難したりすることはできません。つまり、男女の差は、比べることにそのものに意味はなく、その違いを個性として受け入れ、そのよさをどう生かすかが大事だと私は考えます。

さて、少子高齢化が進み、日本の人口が減り始めた今、「男だから」「女だから」といつて争っているのはばかなことだと思います。みんなにとって、よりよい社会を創れるなら、上に立つのが男であろうと女であろうと構わないはずです。それが、男女共同参画が目指すところだと私は思います。

世界には女の大統領や首相がいます。テレビで見る彼女たちは、とてもかっこよいと私は思います。また、最近増えてきた男の保育士や看護師、美容師も同じようにかっこよく見えます。自分がなりたい仕事をしている人は輝いています。これからもっと、みんなが輝ける社会になるとよいなと思いました。